

令和4年8月4日  
江戸川区役所5階  
災害対策本部室

## 第2回 江戸川区消防団運営委員会 次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 新委員の紹介

4 議 事

「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策  
はいかにあるべきか」

・・・・・・・・・・資料1～5

5 そ の 他

(1) 江戸川区内消防団の現況・・・・・・・・・・別添え1

(2) 江戸川区内災害の状況(速報値)・・・・・・・・別添え2

6 閉会

### 【配布資料】

資料1「江戸川区消防団運営委員会 審議予定(案)」

資料2「特別区消防団運営委員会の諮問事項について」

資料3「第1回江戸川区消防団運営委員会における意見及び対応等」

資料4「江戸川区消防団運営委員会答申骨子(案)」

資料5「江戸川区消防団運営委員会答申(案)」

別添え1「江戸川区内消防団の現況」

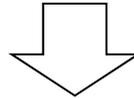
別添え2「江戸川区内災害の状況(速報値)」

## 江戸川区消防団運営委員会 審議予定(案)

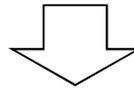
諮問事項	「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」
------	--

審議期間：諮問日から令和 5 年 3 月末日まで

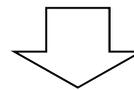
第 1 回運営委員会 令和 4 年 1 月 3 1 日 (書面開催)	前回諮問の答申報告 今回諮問事項の趣旨説明・大項目の抽出
--	---------------------------------



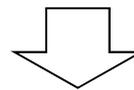
第 2 回運営委員会 令和 4 年 8 月 4 日	答申骨子(中・小項目)の抽出・検討 次回の委員会開催スケジュール
------------------------------	-------------------------------------



事務局	審議内容を踏まえて答申案を作成
-----	-----------------



第 3 回運営委員会 令和 5 年 1 月下旬	答申案の検討・承認(答申決定)
----------------------------	-----------------



令和 5 年 3 月 3 1 日までに答申

## 特別区消防団運営委員会の諮問事項について

## 1 諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか

## 2 諮問の趣旨

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時には消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割りを担うなど、地域住民から頼られる存在である。今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時には、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、当庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。

## 3 課題を踏まえた検討の方向性

## 課題 1

継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、震災に特化した実戦的な訓練は十分とは言い難い。

## 検討

時間的、環境的な制約の中での活動マニュアルに沿った効率的な実動訓練、部隊運用・指揮判断能力の向上訓練及び署隊との連携活動訓練等の効率的実施に向けた検討

- ・ 実戦的な現場力の向上
- ・ 訓練実施環境の改善や実施場所
- ・ 消防団員、消防職員への教育

## 課題 2

新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の訓練や新人教育等が困難である。

## 検討

令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響により消防団の活動に制限がかかり、訓練回数も大幅に減っている。今後、影響が長期化することも考慮し、デジタル環境を有効活用した知識や現場判断力など総合的な活動能力の維持や向上方策等について検討

- ・ デジタル環境の有効活用による活動力維持や向上
- ・ デジタル環境の充実
- ・ 新たな技術の活用

## 課題3

消防団員数の不足に伴い、必要な災害現場に必要な人員を向けられないなど活動力の低下が危惧される。

## 検討

全国的に消防団員の不足が問題となっており、江戸川区についても例外はなく充足率は不足となっている。消防団活動の更なる理解や周知度の向上に伴う入団促進及び充足率の維持向上方策等についての検討

- ・ 若い世代の団員確保と組織の活性化のための方策
- ・ 募集広報の充実・強化
- ・ 女性や学生など対象に応じた募集広報の継続及び強化
- ・ 震災時等、大規模災害時の活動力向上のための人員確保

## 課題4

消防団の資機材には重いものも多く、また、震災時には長時間対応なども考えられ、肉体面での負担が大きくなる。消防団員の平均年齢も上昇しており、各種活動面における負担軽減に配慮した資機材の配置が望ましい。

## 検討

配置資機材の種類削減や軽量化など、効率的かつ負担を軽減した装備資機材の整備についての検討

- ・ 新たな資機材整備による負担軽減
- ・ 既存の資機材の軽量化やコンパクト化による負担軽減

## 第 1 回江戸川区消防団運営委員会における意見及び対応等

意見要旨	対応等
<p>課題 1 について 大規模地震により大きな被害が発生した場合には、消火活動において優先順位をつけていくことや、複数に分かれての対応が重要であると考えます。そのため、指揮判断の訓練や連携活動訓練は必要と考えます。</p>	<p>消防団員の統一的な指揮要領や活動要領の習得、消防団員を指導する消防職員の教育などについて検討いたします。 【中項目 3】</p>
<p>課題 1 について 自営業の団員と企業に勤務する団員によっても活動しやすい時間帯や曜日にはばらつきがあると思われ、各団でアンケートとはいかないまでも、意見を集約して日程調整など柔軟に対応できる風土の醸成も求められるのではないのでしょうか。</p>	<p>時間的制約や訓練実施環境の改善などについて検討いたします。 【中項目 1】</p>
<p>課題 1 について 地域によって、木造家屋が多い場所やコンクリート建物が多い場所があります。実情に応じた実戦的な訓練が必要だと考えます。</p>	<p>地域特性を考慮した実戦的な現場力の向上について検討いたします。 【中項目 1】</p>
<p>課題 1 について 実戦的な現場力の向上として、被災地への派遣、学校の避難訓練への参加、災害時ボランティアとして期待できる中学生との連携などを進めていくと良いと思います。</p>	<p>前段：消防団員の出場は自己消防団区域を原則としており、(管轄外)被災地への派遣は行われていません。隣接消防団との相互応援については前回の運営委員会答申から特別区消防団の災害活動要領が改正され消防団の相互応援要領が策定されています。 後段：訓練実施環境の改善や実施場所として検討いたします。 【中項目 2】</p>
<p>課題 2 について デジタル環境向上のため、分団に Wi-Fi 設備の予算が付きましたが、今後、自宅等とのやりとりにオンラインが使用される場合の課題を抽出していただきたく思います。</p>	<p>令和 3 年 9 月にモバイルルーターと携帯型端末装置が各消防団の本部・分団本部に配置となりました。アプリケーションは LINE WORKS、Zoom、東京消防庁公式アプリなどが入っています。 メールやチャットは LINE WORKS を使用しますが外部端末(団員の個人所有)との接続は個人情報関係で禁止されています。</p>

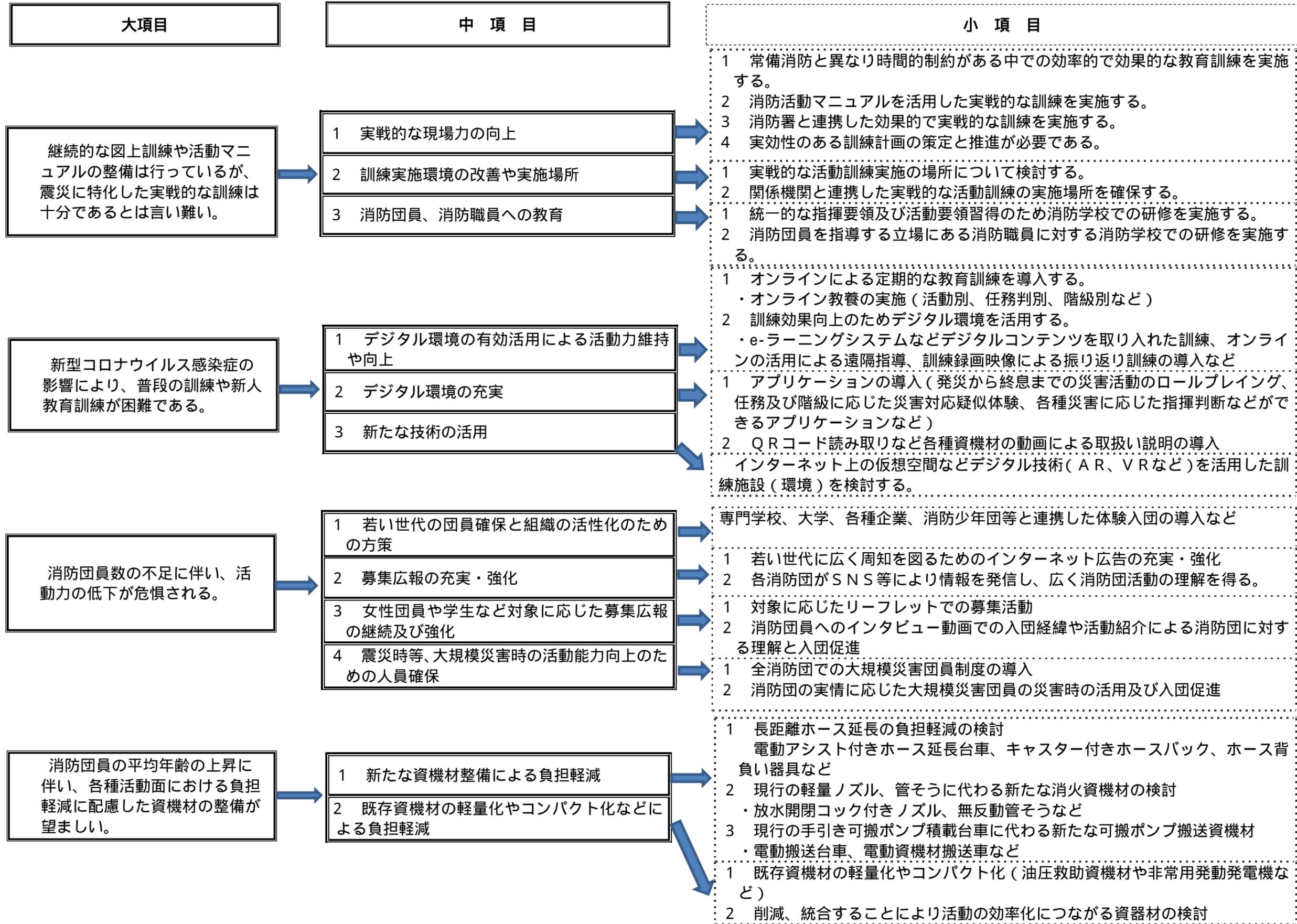
<p>課題 2 について</p> <p>ラインなどを活用して、団員間で情報共有をされていると伺っています。新たなシステム導入は、システムの作成やその習得にコストがかかりますので、団員が使いやすい(現状工夫している)ものを支援することが現実的と思います。</p>	<p>現行のデジタル環境の有効活用についても検討いたします。</p> <p>【中項目 1】</p>
<p>課題 2 について</p> <p>分団本部だけでなく、団員一人一人へのパソコン端末の配布と Wi-Fi 環境の整備、日常的なオンライン通信、停電時のデジタル環境の確保が必要だと思えます。</p>	<p>各消防団本部・分団本部に配置となったモバイルルーターで個人端末 10 台までの接続が可能となっています。</p> <p>団員へのパソコン端末の配布については現時点ではありません。今後デジタル環境の充実について検討してまいります。</p> <p>【中項目 2】</p>
<p>課題 3 について</p> <p>災害を疑似体験できるバーチャルリアリティ(VR)防災体験車などにより、参加意欲が高まる防災訓練が実施されております。これに限らず、例えば、現役団員による動画の配信など楽しさとやりがいをアピールし、参加意欲をかきたてる工夫をすることにより団員確保に努めていただきたいと思います。</p>	<p>S N S 等の活用を含め募集広報の充実・強化について検討いたします。</p> <p>【中項目 2】</p>
<p>課題 3 について</p> <p>女性・若者の増員を目指したいというところで、区内のスーパーやコンビニ、商店街などに募集啓発チラシやパンフレット設置のご協力を頂いてはいかがでしょうか。また、全国の消防団の増員成功事例を共有できると良いかと思えます。</p>	<p>女性や学生などの若者など対象に応じた募集活動について検討いたします。</p> <p>【中項目 3】</p>
<p>課題 3 について</p> <p>消防団員の不足解消に取り組むことが大事だと思います。</p>	<p>入団促進及び充足率の維持向上方策について検討いたします。</p> <p>【中項目 1 ~ 4】</p>
<p>課題 3 について</p> <p>23 区内で最も早く結成された江戸川消防少年団をはじめ、区内 3 消防少年団との連携強化と人材育成が必要だと思います。消防団員の減少と団員の高齢化は、何としても歯止めを掛けなければなりません。</p>	<p>消防少年団との連携強化や体験入団など若い世代の団員確保と組織の活性化方策として検討いたします。</p> <p>【中項目 1】</p>

<p>課題 3 について 消防団OB・OGの登録、活動への補助的参加をお願いできれば良いと思います。また、消防団の予備隊として、警察の定年した方の協力や他の行政機関などの協力をお願いすべきだと思います。</p>	<p>大規模災害時等の活動力向上のための人員確保について検討いたします。 【中項目 4】</p>
<p>課題 3 について 地域祭りが再開した際には消防団体験コーナーの設置、防災訓練時の消火器操作、広報えどがわで定期的な活動紹介、学生向けに有償ボランティアの検討をすすめたい。</p>	<p>募集広報の充実及び若い世代の団員確保と組織の活性化方策として検討いたします。 【中項目 1、中項目 2】</p>
<p>課題 4 について 負担軽減に配慮した資機材はごもっともだと思います。夏は涼しく冬は暖かい団員服に年々改善されてきましたが、団員はなかなか意見を言いづらいように思います。装備は通常決められたものを与えられますが、購入前から商品のラインナップを示して選んでいただくことができるのが望ましいと考えます。従前、靴の底が抜ける、無線がすぐ壊れた、水槽の枠がすぐに折れてしまうという声が寄せられたことがあります。おそらく同じメーカーのものであったと考えられます。一括購入の前に資機材の選択肢を示し選んでもらうこと、個人が特定されない形でアンケートをされ、これまでの機器での問題点の洗い出しをされて、再発防止、あるいは、新規交換する場合の参考にされると良いと考えます。</p>	<p>団員の意見や各区の消防団運営委員会の答申を踏まえ、必要な資器材の整備を行っています。 消防団員の使用する資機材についてアンケートを実施し問題点を抽出し、新たな資機材整備について検討いたします。 【中項目 1】</p>
<p>課題 4 について 新たな資機材整備を積極的に進めてください。軽量化やコンパクト化の負担軽減は、全体の消防団活動にとっても大きなメリットがあると思います。具体的な検討チームを立ち上げたら良いと思います。</p>	<p>軽量化やコンパクト化の負担軽減について検討いたします。 【中項目 2】</p>
<p>質問（主な活動内容について） 組織図は良くわかりました。分団ごとに任務班の人数は任されているのか、または一定の基準があるのか、ご教示ください。</p>	<p>任務班はあらかじめ指定されておりますが、災害状況により人数を増減して運用します。例として消火班は原則 5 名以上で編成しますが、延焼火災が多く発生した場合は消火班を増強して運用します。</p>

江戸川区消防団運営委員会答申骨子(案)

諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか



## 江戸川区消防団運営委員会答申（案）

はじめに

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を活かしながら、災害発生時においては消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割りを担うなど、地域住民から頼られる存在である。

今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時においては、その特性を活かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、東京消防庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。

このことから、消防団の実戦的な対応力の更なる向上が、震災時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について具体的な方策について検討するとともに、その実現に向け提言をするものである。

### 第 1 検討における大項目の抽出

大項目を抽出した背景は以下のとおりである。

- 1 継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、震災に特化した実戦的な訓練は十分であるとは言い難い。

時間的、環境的な制約の中での活動マニュアルに沿った効率的かつ効果的な実動訓練、部隊運用・指揮判断能力の向上訓練及び署隊との連携活動訓練等の効率的実施に向けた検討が必要である。

- 2 新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の訓練や新人教育訓練が困難である。

デジタル環境を有効活用した知識や現場判断力など総合的な活動能力の維持や向上方策等についての検討が必要である。

- 3 消防団員数の不足に伴い、活動力の低下が危惧される。

消防団活動の更なる理解や周知度の向上に伴う入団促進及び充足率の維持向上方策等についての検討が必要である。

- 4 消防団員の平均年齢の上昇に伴い、各種活動面における負担軽減に配慮した

資機材の整備が望ましい。

配置資機材の種類削減や軽量化など、効果的かつ負担を軽減した装備資機材の整備について検討が必要である。

**第2（具体的な提言）継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、震災に特化した実践的な訓練は十分であるとは言い難い。【大項目1】**

1 実践的な現場力の向上（中項目1）

常備消防とは異なり時間的制約がある中での効率的で効果的な教育訓練を実施する必要があるため、消防活動マニュアルの活用や消防署と連携した効率的で実践的な訓練を実施することが必要である。

また、多くの団員が訓練に参加できる実効性のある訓練計画の策定を推進する必要がある。

2 訓練実施環境の改善や実施場所（中項目2）

江戸川区内には荒川、江戸川の河川敷があり、定期的に遠距離放水等の訓練は実施しているが、大規模地震発生時に備えた実践的な訓練実施場所について検討する必要がある。そのため、関係機関と連携した実践的な活動訓練の実施場所を検討し確保する必要がある。

3 消防団員、消防職員への教育（中項目3）

消防団員の幹部研修として初級幹部研修、警防科研修、指揮幹部研修が行われているが受講人員が限られているため、より多くの消防団員が統一的な指揮要領及び活動要領を習得するため、消防団員の消防学校での研修が必要である。

また、消防団員に対する指導技術の向上のため、消防団員を指導する立場にある消防職員に対する消防学校での研修を実施する。

**第3（具体的な提言）新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の訓練や新人教育訓練が困難である。【大項目2】**

1 デジタル環境の有効活用による活動能力の維持や向上（中項目1）

消防団員に対しデジタル環境を有効活用し、活動別、任務班別、階級別のオンラインによる定期的な教育訓練などのオンライン教養による活動能力の維持や向上が必要である。

また、e-ラーニングシステムなどデジタルコンテンツを取り入れた訓練、オンラインの活用による遠隔指導、訓練録画映像による振り返り訓練の導入など現行のデジタル環境による訓練効果向上を図る。

2 デジタル環境の充実（中項目2）

発災から終息までの災害活動のロールプレイング、任務及び階級に応じた災害対応疑似体験、各種災害に応じた指揮判断ができるアプリケーションやQRコード読み取りで各種資機材の動画による取扱い説明ができるようにするなど

デジタル環境の充実が必要である。

3 新たな技術の活用（中項目3）

インターネット上の仮想空間などデジタル技術（AR、VRなど）を活用した訓練施設（環境）を検討する。

**第4（具体的な提言）消防団員数の不足に伴い、活動力の低下が危惧される。【大項目3】**

1 若い世代の団員確保と組織の活性化のための方策（中項目1）

学生団員、勤務地団員確保のため、専門学校、大学、各種企業、消防少年団等と連携し消防団施設開放や体験入団など導入し消防団員から直接魅力を伝える取り組みが必要である。

2 募集広報の充実・強化（中項目2）

若い世代に広く周知を図るためのインターネット広告の充実・強化、各消防団がSNS等により情報を発信し、広く消防団活動の理解を得る取り組みが必要である。

3 女性団員や学生など対象に応じた募集広報の継続及び強化（中項目3）

女性や学生、勤務者など対象に応じたリーフレットでの募集活動を継続するとともに、消防団員へのインタビュー動画での入団経緯や活動紹介による消防団に対する理解と入団促進を推進する。

4 震災時等、大規模災害時の活動能力向上のための人員確保（中項目4）

大規模災害団員制度を導入し、消防団の実情に応じた大規模災害団員の災害時の活用及び入団促進が必要である。

**第5（具体的な提言）消防団員の平均年齢の上昇に伴い、各種活動面における負担軽減に配慮した資機材の整備が望ましい。【大項目4】**

1 新たな資機材整備による負担軽減（中項目1）

電動アシスト付きホース延長台車、キャスター付きホースバック、ホース背負い器具などによる長距離ホース延長の負担軽減の検討、現行の軽量ノズル、管そうに代わる新たな消火資機材の検討が必要である。

2 軽量化やコンパクト化などによる負担軽減（中項目2）

油圧救助資機材や非常用発動発電機など既存資機材の軽量化やコンパクト化、削減、統合することにより活動の効率化につながる資機材の検討が必要である。